

今森光彦

自然と暮らす 切り紙の世界



《パンサーカメレオンとパキボディウム》2012年

2021年7月31日 [土] ▶ 9月27日 [月]

※会期中無休

- 開館時間：午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)
- 入館料：一般1,000円(4枚セット券3,000円) / 大学生800円 / 高校生500円 / 中学生以下無料
- 主催：公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム ● 後援：中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、三重テレビ放送
- 企画制作：NHKエンタープライズ近畿、オーレリアンガーデン、クレヴィス



ご来館の際は、マスクの着用等、新型コロナウイルス感染症の予防にご協力下さい。

©Mitsuhiko Imamori

今森光彦



自然と暮らす切り紙の世界

今森光彦(いまもり・みつひこ/1954年~)は、自然写真家として国内外で高い評価を受ける一方、ハサミで自然の造形を鮮やかにきり取る切り紙作家としても活躍しています。

今森は幼い頃から“生きもの少年”として豊かな自然に親しみ、湖や川、田んぼや林で多くの時間を過ごしてきました。自然に寄り添うその暮らしは、大人になった現在でも変わることはなく、自ら田んぼや雑木林の手入れをしながら里山環境の一部となり、生活を続けています。

今回は、四季の変化を身近に感じ、そして豊かな自然に寄り添いながら生活を続ける今森の暮らしを紹介するとともに、精選された切り紙作品を展示します。たった一本のはさみから切り出される作品は、自然に寄り添いながら生活する自身の経験から生み出され、生命が放つ輝きにあふれています。

生きものを愛してやまない今森光彦のアトリエから生まれる作品の数々を、お楽しみください。

※展示作品には一部、ソリドグラフ(23億画素からなる超高精細立体スキャナーを使用した版画)が含まれます



《木々に囲まれたアトリエ》



©オーレリアンガーデン

今森光彦 プロフィール

1954年滋賀県大津市生まれ。大学卒業後、独学で写真技術を学び、1980年よりフリーランスの写真家となる。以後、琵琶湖をのぞむ田園にアトリエを構え、自然と人との関わりを「里山」という概念で追う一方、世界各国を訪ね、熱帯雨林から砂漠まで、生物の生態を追求し取材を続けている。第20回木村伊兵衛写真賞、第28回土門拳賞など受賞多数。



《キマダラセセリとヒマワリ》2012年



《ヤシオウムとユーカリ》2011年



《刺の森のライオン》2012年



《ワシミズクとヒマヤスギ》2013年



《どうぶつ島(パレード)》2012年

©Mitsuhiko Imamori

次回展示のお知らせ

2021.10.2(土)▶11.14(日)

光ミュージアム所蔵 美を競う 肉筆浮世絵の世界展

江戸美術の代表格「浮世絵」は多色摺木版画の鮮やかな錦絵が広く知られていますが、網地や和紙に直筆で表現された「肉筆浮世絵」は、大量に制作された版画の錦絵とは異なり、浮世絵師の腕前を直に味わうことができる一点ものの貴重な絵画作品です。北斎、広重、国芳、英泉、芳年ら人気絵師が描いた、豪華な着物の文様、結髪、毛筋の精緻な描写など、肉筆浮世絵ならではの華麗な美の競演をお楽しみ下さい。

■お車をご利用の場合/○東名阪[四日市IC]より湯の山温泉方面へ約6.5km ○新名神「菟野IC」より約4km ■無料駐車場有り(普通車100台、大型バス駐車可)
■電車をご利用の場合/近鉄「四日市駅」より近鉄湯の山線にて約25分、「大羽根園駅」下車、湯の山温泉方面へ300m ■全館バリアフリー、車椅子常備



paramitamuseum

公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム 〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6
Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077 E-mail office@paramitamuseum.com
https://www.paramitamuseum.com Facebook www.facebook.com/paramitamuseum Twitter @paramita_muse

パラミタミュージアム 検索